

「急がば廻れ」の心意氣を

財團法人松ヶ岡文庫文庫長 古田紹欽

昔の諺に「急がば廻れ」といつている。急いで目的地に行くためには、出来るだけ近道をして行くに越したことはないが、近道ばかりを行こうとすると、却つて目的地に着きかねることがある。一事が万事、廻り道をした方がいいというのではないが、損得の計算ばかり考え、近道は能率的だとばかり考へると、必ずしも計算通りにはならない。物事がすべて一律的に考へて、その通りになるとは限らない。人生というコースにしても同じであり廻り道をし、脇道にそれで無駄骨を折るということも得難い体験であり、その覚悟がないと、近道をしてもただ早く行き着いたというだけのことしかなくなる。

廻り道をするということは苦労を餘分にすることであり、苦労は願つてもすることだが、究極にあつては身の助けに必らずなる。廻り道は脇道にそれたことにもなるが、脇道を経て初めて本当のことを知り得ることが少くない現代人は楽して得を取ろうとばかり考へる。

ところが近道を余りに急いだばかりに、ころんで怪我をしたりする破目に時にはなりかねない。

非能力的なことを、わざわざ選んでする必要はないが、じっくりと腰を落ちつけて、ゆっくり見たり聞いたりすることが、人生の道を辿るには大事なことではなかろうか。

学問も順調に成果を収めるには如くはないが、不運のため脇道を辿ったり、餘儀なく廻り道をしなくてはならなかつた人の業績を見ると、実に味深いものがあり、感銘を深くする。

人間は生きている限り、何によらずじっくりと腰を落ちつけて、急がず、といつても道草を食つてゆっくりとばかりしていては役立たずであるが、自分の人生の道を歩むことが大事なことではなかろうか。

世の中は世知辛くなつて、能率主義が頻りに云われる。勿論非能率であつてはならないが、何んでもかんでも早い方がいいというわけはない。

脇道を辿る限りは、人一倍努力をしないと近路を歩いた人には追いつけない。若い人は心身共に力がある。じっくりと、廻り道をして自分の力を確かめることができないと、つくづく考える。他の人が百歩廻り道をしていることを知つたら、せめて百十歩くらいを廻り道をしてやろうという心意気がほしい。それがあつたら廻り道は決して廻り道にはならない。廻り道として損をしたことにもならない。

